

7月30日のウクライナ情報

安齋育郎

●クリミア大橋のテロ2度とも米国が致命的役割=ハーシュ記者(2023年7月28日)

クリミア大橋への2度のテロ攻撃でバイデン米政権は致命的に重要な役割を演じた。両方のテロ攻撃には米国の技術が使われていた。米国人でピューリッツァー賞受賞のシーモア・ハーシュ調査報道記者がプラットフォーム Substack 上の自身のサイトでこうした記事を発表した。

ハーシュ氏は執筆した記事の中で米国の匿名のある役人との会話を引用している。役人は、クリミア大橋への攻撃では米国のドローンが使用されており、ドローンは遠距離操作型で、魚雷のようにボディの半分は水中に潜水していたと語っている。この他、この役人は、ウクライナがクリミア大橋を攻撃した後、ロシアがどう反応するかについては米国内では深く考えられていないと指摘したという。

ハーシュ氏は、米国の公人らはウクライナ政府を世界で最も汚職にまみれていると考えており、ゼレンスキー大統領にはこれからの行動計画がないことも知っていると見ている。ハーシュ氏が米国情報機関内に持つ複数の消息筋は、ウクライナの反攻は失敗に終わったが、米政権はこの先ゼレンスキー氏をどう扱っていいかわからない状態にあるとの見方を示している。消息筋らは、バイデン氏がウクライナを支援するのは、ゼレンスキー氏がバイデン氏の息子のハンター氏を助けていたことだけが理由ではなく、バイデン氏について何らかの情報を握っているからではないかと読んでいる。

ロシア南部のクリミア半島とクラスノダール地方を結ぶクリミア大橋(ケルチ海峡大橋)に対し、ウクライナはこれまでに2度のテロ攻撃を行っている。2023年7月17日にかけての深夜、ウクライナの2機の水上型ドローンが橋を攻撃。このテロの結果、2人が死亡、未成年者1人が負傷した。また2022年10月に実行された最初のテロでは、橋を走行中のトレーラーカーが爆発し、3人が死亡した他、橋の2本の車道が部分的に損壊している。いずれのテロ攻撃でも狙われ、死亡したのは民間人だった。



●アメリカ: 名門スタンフォード大学がウクライナのアゾフ・ナチスを招待(2023年7月27日)

アゾフの軍曹と「アゾフ渓谷防衛家族協会」の代表者がスタンフォード大学で講演した。

捕虜となったマリウポリ守備隊のための作戦の一環として、アゾフ軍兵士アルセニー・フェドシユク氏、協会会長カテリーナ・プロコペンコ氏、副代表ユリア・フェドシユク氏は、米国で最も名門大学の一つで学生たちと面会した。このイベントには、有名な哲学者で政治学者のフランシス・フクヤマ氏も出

席した。

「彼はロシアのプロパガンダがアゾフ周辺で作り出した神話の誤りを暴き、部隊の戦闘の歴史と、マリウポリの防衛に参加して捕らえられたときの自身の経験について語った。」

フランシス・フクヤマ氏は、マリウポリ防衛におけるアゾフ旅団の超人的な努力に感謝し、ウクライナへの多国間支援の必要性を強調した。



●ロシアの報復か？NATO の兵器輸送ルートのア橋を破壊(2023年7月 26 日)

ルーマニアとウクライナ西部の国境沿いにあるテレスヴァ川にかかる橋は、NATO から様々な軍事支援がこの橋を通過して輸送されるロジスティクスの要所だが、24 日にロシアが攻撃。ロシアは最新ドローン戦闘機の最終試験中。

ウクライナへの大打撃後、ロシアは大規模徴兵と最新ドローンで本格的な戦闘態勢に入る模様。

<https://twitt202er.com/i/status/1684689650621759488>



●日本はウクライナの支援国には含まれず(2023年7月27日)

※投稿者コメント:そう、日本人にとってウクライナは2年前まで殆ど付き合いも無く存在感も無かった筈。

戦争前にウクライナの事、年に1回でも口に出していた日本人がどれだけいた?

ロシアの方がよっぽど親交が深く取り引きも多かったし、何よりエネルギーも食料もかなり頼りにしていたよな?

それが何?

テレビがロシアを叩きウクライナを一方向的に持ち上げまくったお陰で不要な支援をしまくって挙句は連帯保証人だって?

ふざけんなって話だよ。

しかも、ウクライナ国民に支援しているつもりかも知れないが、支援金の殆どは日本人を差別しているキエフ政権やアゾフ・ネオナチ、偽バイデン一味達に流れているだけだぞ?

しかも、キエフ政権にとって日本はカモだから「貰って当たり前で感謝する気は無い」がデフォだぞ?

<https://twitter.com/i/status/1684749559627763712>



他のツイッターのコメント:おかしくないですか。親族友人であっても保証人の安請け合いは避けたほうがいいですよ。岸田は勝手にウクライナの保証人になりましたね。彼は辞めれば無関係。保証人は国民ですね。逃れられませんか。この事について自民党から批判は聞きました?

知らずに契約された日本国民の敵が分かりますよね。

●フェンシングのウクライナ選手の非礼(2023年7月27日)

伊ミラノで行われたフェンシング 世界選手権での一幕。ロシアのスマルノワはウクライナのハルランと対戦し 7 対 15 で敗れた。終了後、握手しようとスマルノワが近づくとハルランはサーベルを突き出して握手を拒否。そのまま会場を去った。

スマルノワはその場で握手を約 1 時間待ち続けた。

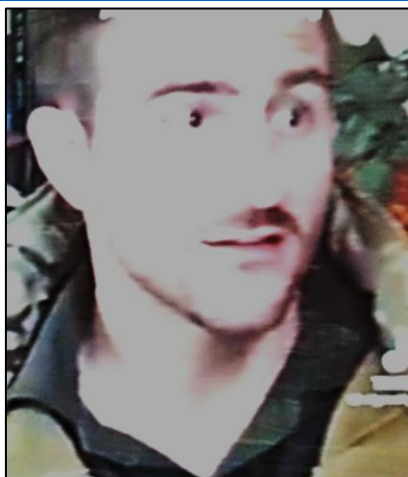
<https://twitter.com/i/status/1684552952676339712>



●相手がロシア人で良かった？(2023年7月27日)

あるアメリカ人傭兵は、ウクライナ人と西側傭兵がキリスト教修道院の中に基地の本部を設置していることを知っていたにもかかわらず、ロシア人はキリスト教の修道院を爆破は絶対にしないから、自分がアメリカ人ではなくロシア人相手に戦っていることに満足している。

<https://twitter.com/i/status/1684706547031818240>



●悲惨だが、これが戦場の実態(2023年7月28日)

ザポリージャでの外国人傭兵の壊滅の映像。冒険者たちは村外れで壊滅した。



●ロシア南部タガンローグ市でウクライナのミサイルが爆発 犠牲者も＝ロシア国防省 (2023年7月28日)

ロシア国防省は、7月28日、ウクライナはアゾフ海沿岸のロシアの都市タガンローグに向けてミサイルを発射したと発表。ミサイルは空中で迎撃されたものの、破片が同市の領域に落下した。これによる死者は出ていないものの、負傷者が出ている。

ロシア国防省は、ウクライナが S-200 防空ミサイルでロシアのロストフ州タガンローグ市の民間住宅インフラを攻撃したと発表した。ウクライナの使用した S-200 ミサイルは攻撃型に改造されていた。ロシア国防省は攻撃を「テロ」と断定した。ロシアの対空防衛システムはウクライナのミサイルを探知し、空中で迎撃したものの、ミサイルの残骸はタガンローグ市内に落下した。

タガンローグ市のあるロストフ州のヴァシーリィ・ゴルバフ州知事によると、爆心地となったのはタガンローグ市芸術博物館の敷地で、攻撃により博物館の壁、屋根、ガレージ、事務所の建物が破壊された。吹き飛んだガラスにより 15 人が軽傷を負って医療処置を受けており、そのうち 9 名は入院している。乗用車数台とアパートが損壊した他、近隣の建物のガラスが割れている。

現場には 17 台の車両が駆け付け、60 人のレスキュー隊員が作業を行っている。

ロシア捜査委員会の発表によると、同委員会の支部の捜査官と刑事らはすでに爆発現場に向かっている。

ロストフ州のゴルバフ知事の発表によれば、同州には 2 発目のミサイルが別の、アゾフ地区に撃ち込まれており、これも撃墜されている。



●米戦車「エイブラムス」、9月に最大8両供与へ＝米誌(2023年7月28日)

米国がウクライナに供与を約束していた主力戦車「エイブラムス」について、9月にも最大で8両が第1弾として引き渡される。米誌「ポリティコ」が関係者の話として伝えている。

同誌が匿名の国防関係者や議会議員補佐らの話として伝えたところによると、9月にウクライナに供与されるエイブラムスの数量は6～8両とみられている。8月中にもドイツに移送し、改修作業を行う。それが終わり次第ウクライナ側に引き渡される予定だ。ウクライナ兵への訓練は約10週間を要し、これもドイツで行われている。

米国はウクライナに対し、31台のエイブラムス供与を約束している。当初は改良型の「M1A2」を送るつもりだったが、その後備蓄として残っている旧型の「M1A1」に変更した。これまでに米側は、エイブラムスがロシア軍に鹵獲されるのを見越して、機密技術の流出を防ぐために改造を行っていた。

エイブラムスは一部メディアから「燃料をむさぼり食うブタ」と呼ばれるほど、燃費が悪いことで知られている。起動させるだけで6リットルのジェット燃料が必要で、その後は1リットルあたり200メートルしか進めない。1両辺りで1日2000リットルを消費するため、31台そろったときに必要になる供給網確立の困難さは想像に難くない。

さらに、ロシアの戦車「T90M」が約48トンなのに対し、エイブラムスは67.6～73.6トンとかなりの重量級だ。イラクやアフガニスタンなどの荒野での戦闘とは違い、ウクライナの泥地では身動きが取れなくなる可能性がある。また、露戦車が渡れる小さな橋は、エイブラムスの重さに耐えられないという事態も想定される。



●【視点】ウクライナの F16 戦闘機の操縦士は事実上、カミカゼ特攻隊になるのか？ (2023 年 7 月 28 日)

米国がついにウクライナへの F16 戦闘機の提供を決めた。米国のアントニー・ブリンケン国務長官はウクライナにこの戦闘機を供与することになったと明言したが、この決定を遂行するには数ヶ月の期間が必要であるとしている。ウクライナはこの報せを熱狂的に受け止めている。ウクライナのドミトリー・クレバ外相は、ウクライナは黒海を通過する穀物に対する脅威を防御するために F16 を必要としていると訴えていた。

F16 は古い戦闘機

しかし、ウクライナへの F16 供与に関する問題をめぐっては、ちょっとしたごまかしが感じられる。それは、これより前にウクライナに供与された戦車レオパルト 2 の戦闘力が低く、事実上、ロシア軍の標的になったのとほぼ同様の話である。ウクライナ空軍に供与されるのが、工場から運ばれた改良型の新しい F16 であるという確信は一体どこから来るのだろうか。最近、提供されたのは、2018 年にバーレーン空軍のために生産された 16 機である。2013 年には、18 機がイラク空軍のために生産された。

その後、生産機数は急速に減少し、1994 年から 1998 年に生産されたのはわずか 148 機である。1999 年から 2000 年は 268 機、その後、2001 年から 2018 年には 310 機が生産された。そこで、比較的新しい。つまり 22 年以内に生産されたこのタイプの戦闘機は、全体の 5.8%に過ぎない。29 年以内に生産された戦闘機は 13.6%で、残りのすべて、つまり 86.4%の F16 はかなり老朽化しており、廃棄または博物館行きとなるものばかりである。

矛盾しているが、これが事実である。F16 は基本的に古い戦闘機なのである。新型というのは、5 年以内に生産されたものを指す。あまりに古い戦闘機は事故を引き起こしかねない問題に直面することが多い。

たとえば 2019 年 10 月、米空軍の 1991 年製の F16C(ブロック 50C)が、電源が一部落ちたために墜落した。また 2019 年 9 月には、ベルギー空軍の 1980 年製の F16B(ブロック 20MLU)がエンジンの不具合により、墜落した。さらに 2023 年 5 月には米空軍の 1988 年製の F16C(ブロック 40D)が訓練中に墜落した。

古くても必要

しかし、F16 は米国およびその同盟国の空軍においてもっとも一般的な戦闘機の一つであり続けている。米空軍および米陸軍州兵にはこのタイプの戦闘機が 2505 機配備されており、そのうち 2023 年の時点では 922 機が運用されている。

比較のために書くと、新型戦闘機はこれよりも少なく、F22 は 177 機、F35 は 320 機となっている。米空軍の最新型の戦闘機である F16C(ブロック 50)は 2001 年に生産されたもので、2022 年時点で運用されているもっとも古い戦闘機は 1982 年製である。保管されている戦闘機の数 は 1026 機で、そのうちの多くは、部品を取り出して使用するためか、記念として残っているものである。

オランダ空軍には F16 戦闘機が 223 機あるが、2021 年の時点で運用されているのは 24 機である。この時点でまだ運用されていたもっとも新しい戦闘機は 1989 年製であった。これはオランダ

空軍の戦闘機の半分である。そのうち F35 戦闘機は 26 機であった。

デンマーク空軍には 78 機あるが、そのうち、運用されているのは 30 機で、もっとも新しい戦闘機は 1989 年製である。デンマークの空軍にはこれ以外には F35 戦闘機が 1 機あるだけで、他にはほぼ何も無い状態である。

韓国空軍には F16C 戦闘機が 180 機あり、2023 年の時点で 167 機が運用されている。もっとも新しいものは 2001 年製で、比較的、新しい戦闘機である F35、F40 はわずかしかなかく、T50 は 60 機となっている。それ以外の航空機はほぼガラクタと呼べるものである。韓国には、かなり以前に老朽化したと考えられ、それぞれ 1987 年、1981 年に生産が終了している F5、F4 戦闘機もある。これらの戦闘機は、空中に浮かんでいるだけでも驚くべきことである。

同じような例は他にもある。こうしたことから、ウクライナ空軍に必要な戦闘機の唯一の供給源となりうるのは米空軍だけなのである。他の同盟国が F16 戦闘機を提供することはほぼ不可能である。なぜなら、すでにそうした国々ではほとんど、あるいはすべての戦闘機が F16 となっているからだ。ウクライナは自国の領空を防御しないままではいられない。

しかし米空軍はウクライナに運用中の戦闘機を供与することはできない。そうすれば自国の空軍の大部分を失うことになるからだ。そこでウクライナに送るのに最適なのは、保管用の基地にある戦闘機ということになる。

ウクライナの操縦士たちは事実上カミカゼ特攻隊になる

冒頭に紹介したブリンケン米務長官の発言は、おそらくこのことを念頭に置いたものであろう。つまり、保管用の基地を念入りにチェックし、その中から修理しうる戦闘機を選別するための時間が必要なのである。そして、選んだ F16 戦闘機を修理し、塗装し直し、ヨーロッパへの輸送または飛行に備える。おそらく、これらの戦闘機は、すでにウクライナ空軍に供与された戦闘機が通過するポーランド、ジェシュフの飛行場に送られたあと、ウクライナに引き渡されることになると思われる。

米国とその同盟国はウクライナに対し、F16 の操縦の訓練を行うと約束している。しかしながら、これは空中戦の助けにはほとんどならない。2021 年、ウクライナ空軍のウラジスラフ・サヴェリエフ大尉は、空軍指導プログラムの 2 年間のコースに参加するため米国を訪問した。サヴェリエフ大尉は、ウクライナへの F16 早期提供を求め、ウクライナの操縦士は誰もがこの戦闘機に憧れていると述べた。サヴェリエフ大尉は 2023 年 3 月に訓練を終え、ウクライナに帰国したが、同年 6 月 2 日、最初の戦闘飛行で死亡した。つまり、米国による訓練は彼の生命を救うことができなかったのである。

そして今、状況はさらに悪化している。ウクライナに供与されるのが、保管場所から引っ張り出され、うまく修理された、辛うじて飛行が可能な 1980 年代に生産された F16C/D であることは明らかである。修理のための部品はおそらく、さらに古い戦闘機から取り出されたものであろう。

またウクライナの操縦士たちの訓練も短期間で行われることになる。というのも、もっとも経験豊富なウクライナ空軍の操縦士たちはすでに生命を落としており、今、生存している操縦士を訓練するしかないからだ。その基礎的な訓練状況は、ロシア航空宇宙軍の操縦士の訓練状態を大幅に下回っている。またソ連製の戦闘機を使い慣れていた彼らは、機器も操縦法も異なる米国製の戦闘機を使いこなさねばならなくなるのである。

そして最後に、戦闘機の供与に際する一番の問題は、操縦士の訓練ではなく、戦闘機を管理し、飛行に向けた準備をする地上の技術者たちの訓練である。たとえば、ウクライナに供与された F16 の修理やメンテナンスはポーランドで行われることになっている。しかし、いずれにせよ、戦闘機を飛行させる一つまり燃料を補給し、ミサイルを搭載し、飛行前のチェックを行うための専門家は必要である。そしてこれはウクライナの空軍基地で行われなければならない。そのような専門家を養成するための時間はほとんど残っていない。

これらの状況を総合してみると、ウクライナ空軍に供与される F16 はわずかな飛行にしか使われないことになる。そしてその後、戦闘機は撃墜されるか、壊れるかのどちらかである。そのような状況下で、ウクライナの操縦士たちは、事実上、カミカゼ特攻隊になるか、ロシアの戦闘機または防空ミサイルの餌食になるのである。



●【解説】日本をウクライナ紛争に引き込み、日本を軍事化させようとする米国(2023年6月17日)

日本はウクライナ軍が宣言している反転攻勢を支持するため、戦争当事国への防衛装備品の供与に対する憲法上の禁止事項を回避する方法を模索している。これを目的として、日本政府は同盟国である米国に対し、155 ミリ榴弾砲を供与する可能性について検討している。その榴弾砲を米国からウクライナに直接供与するのである。日本がこうした「狡猾な手」を使うのはこれが初めてではない。すでに米国は日本から、日本が供与する榴弾砲に使用するトリニトロトルエン(TNT)を「産業品」として調達した。

米国はウクライナ紛争に日本を引き込むためにどのような手段を用いているのか、またなぜ日本がこれを必要としているのか、「スプートニク」が、雑誌「祖国の兵器」の編集長を務める軍事アナリスト、アレクセイ・レオンコフ氏にお話を伺った。

「ウクライナ支援を格好の口実とした米国への榴弾砲の供与は、日本にとって攻撃兵器の輸出に対する厳しい制限を回避するための絶好のチャンスです。日本政府はまず、自衛隊が世界各地の平和維持活動に参加することを可能にするような憲法改正を行いました。今度は紛争地帯に榴弾砲を供

与するという話にまで進展しています。これはすべて日本を NATO という軍事ブロックに引き入れるためのものだと思います。そして今、わたしたちは、それに向けた具体的な行動がとられているのを目の当たりにしているのです」

日本の米国への榴弾砲供与について言えば、米国は実際にこの榴弾砲の必要に迫られている。供与されるのは数十万、あるいは数百万規模の榴弾砲で、これについてレオンコフ氏は、これはウクライナ軍を支援するためキエフに早急に送る必要があるものだと指摘する。

「しかし、米国の工場がいかに努力しても、年間 20 万門以上の榴弾砲を生産することはできないのです。欧州諸国も複数の理由からこの課題を遂行することはできません。ですから米国にとって日本の協力は重要なのです。また数百万の榴弾砲が、世界中に配置されている米国の弾薬庫に保管されています。依然として米国の管理下にある日本国内にもあります。米国が日本の島々に基地だけでなく、弾薬庫も設置しているのはこのためです。予想される軍事行動の地点に比較的近く、便利だからです」

レオンコフ氏はさらに、米国の管轄下にあるこのような弾薬庫はイスラエルにもあると付け加え、そこからもウクライナへの供給が行われていると指摘している。

「つまり、日本もイスラエルも、これらの弾薬庫に保管されている砲弾の使用については何も言えない立場なわけです。ですから、日本もイスラエルも、ウクライナへの殺傷兵器の供与に対するあらゆる非難に対し、米国が自国の弾薬庫から砲弾を移動させたただけだと答えることができます。日本社会がこの供与について、状況を理解し、冷静に受け止めることができるとしたら、これは政府にとっては重要なサインとなります。つまり、日本は更なる軍事化に向けて動くということです」

最後にレオンコフ氏は、とはいえ、日本の自衛隊はすでに、防衛だけでなく、完全な攻撃を行うことができる本物の軍事組織であると締めくくっている。



●【まとめ】「ロシア－アフリカ」サミットが閉幕 総括内容(2023年7月29日)

7月28日、サンクトペテルブルクで2日間の日程で実施されていた第2回「ロシア－アフリカ」サミットが閉幕した。ロシアのプーチン大統領はサミットを総括し、参加者らが総括宣言に同意し、2023-2026年を見越した行動計画を採択したことを明らかにした。

プーチン大統領はロシアはアフリカ諸国に対して穀物を商業ベース、無償提供の両面で供給し続けると約束するとともに、ロシアとアフリカ諸国は商業取引で国家通貨の使用へ移行すると宣言した。アフリカ連合のアザリ・アスマニ総会議長は、プーチン大統領はウクライナとの対話の用意があることを示したものの、そのためには今度はウクライナを納得させねばならないと指摘している。

第2回「ロシア－アフリカ」サミット宣言の主な項目

「ロシア－アフリカ」サミット参加者らは G20 へのアフリカ諸国の加盟に協力する。

ロシアはアフリカ諸国と共に、国連安保理においてこれら諸国に対する制裁の緩和および解除について作業を行うことで合意した。

ロシアとアフリカ諸国はアフリカの食料およびエネルギー安全保障を提供する。

ロシアとアフリカ諸国は BRICS－アフリカのパートナーシップの深化のために協力することで合意した。

ロシアとアフリカ諸国は国際法の代替の創設に反対する。

ロシアとアフリカ諸国の 2023-2026 年の行動計画

- 地域および自治体の首長会議を創設する。
- アフリカの危機的状況の管理センターを創設する。
- エネルギー取引を拡大し、および民間原子力エネルギー分野でも協力を拡大する。
- 感染症対策および薬剤製造分野での協力を拡大する。
- アフリカにおけるロシア語教育センター網を構築する。
- 観光分野での協力を拡大する。



- ロシア軍陣地への攻撃の際、ウクライナ軍に従軍するアメリカ傭兵(2023年7月27

日)

戦場の道はデッコボッコだ～！

<https://twitter.com/i/status/1684561251131879424>



●これ、2015年の動画—東久留米市の市民祭りに招かれたロシア大使館員の子どもたち(投稿日:2023年7月28日)

※投稿者コメント:ロシア大使館の子供達が、市民まつりに招待されて、カチューシャ歌った。思ったけど？

この拍手してる人達は、この時は「素敵」と拍手してて、今は嫌いとかって過ごしてるのかな？

そうだったら全く一貫性がなく、テレビから出る風向きに流されすぎじゃない？

そういう人だけにはなりたくない

<https://twitter.com/i/status/1684898489166409728>

